



創立 150年

教育目標 わたしから考える子 にこにこ元気な子 つづけてがんばる子 こころを合わせる子
わにっこり

和邇小だより 令和5年 11月号

児童数396名 文責 澤村幸夫



ぎんもくせい ギンモクセイ(銀木犀)

学校の運動場に、ギンモクセイ(銀木犀)の木を見つけました。キンモクセイ(金木犀)ならぬギンモクセイです。キンモクセイの並木の端に、いかにも控え目に立ち、ほのかなやわらかい香りを放っていました。花の色は黄色がかった白色です。キンモクセイは、秋になると漂う甘めの強い香りが、圧倒的な存在感を誇っていますが、ギンモクセイは、花に近づいて確認しなければ分からないほどの香りです。「木犀(モクセイ)」とは、樹皮が動物の犀(サイ)の肌に似ていることから木のサイという意味で名付けられたそうです。同じ樹木からキンモクセイとギンモクセイに種類が分かれたように思



いますが、実際はギンモクセイが先にあって、キンモクセイはギンモクセイの変種とされています。花の咲く時期はキンモクセイが先で、その後ギンモクセイが咲き始めます。ちょうど今が、ギンモクセイの満開の頃です。

しっかりと大地に根を張り、凜とした佇まいのギンモクセイですが、キンモクセイのように、自己を主張しない様子は、なぜか奥ゆかしさを感じます。自分の信念を持ち、目立たないところでしっかり自分の命を輝かせる、そういった印象です。私たち人間も、表面を着飾ることだけに一生懸命になるのではなく、内面を磨き、物事の本質を考えることに重点をおくことが大事であることに気付かされた秋の一コマでした。

2023 運動会 10/18



澄み渡る秋空のもと、運動会が開催されました。コロナ禍の活動制限をなくし、全校が一堂に会する運動会が開催できたことを、本当にうれしく思います。当日の堂々とした発表はもちろんのこと、この日に向けて努力してきた日々の子どもの確かな成長を感じまし

た。猛暑の続く9月の練習が始まってから、その様子を見てきました。学年の発達段階に応じて、身に付けたい課題を整理し、学習を組み立てました。日が経つごとに課題達成に向けて知恵を出し合い、自分たちで練習の場を設けて互いに学び合う場面が数多く見られました。決して一人では成し得ない、周囲と心を合わせながら、より良いものへと創り上げていくその過程に、私自身、勇気と感動をもらいました。休み時間をすべて費やし、応援の練習に取り組んだ高学年、6年生は、役員として、進行や道具の準備、後片付けを黙々と行い、全校を立派に支えてくれました。

この成果を、これからの生活に生かしてほしいと思います。打ち込めば、きっと何かが生まれ仲間とともに成長し合える、この実感を大切にしてほしいと思います。



和邇小学校の
ホームページ

和邇小学校のホームページをご覧ください。
子どもたちの様子を掲載しています。

学校だより「わにっこり」のカラー版は、和邇小学校の
ホームページから「学校便り」をクリックしてください。

運動会ダイジェスト

紙面
配布
のみ
表示



期間限定 11/1~11/30

1年 サツマイモの絵



1年生では、サツマイモを育て、大きく育ったサツマイモを収穫した後、その絵を描きました。サツマイモをよく見ながら、クレパスで形やもようを描きました。色は絵の具で色混ぜに挑戦し、本物そっくりの絵に仕上がりました。

2年 京都動物園 10/6

2年生は京都市動物園に出かけました。動物園の仕事について教えてもらったり、本物の動物に出会い、肌で感じ



たりすることができました。迫力のある大きな動物、しぐさがかわいい癒される動物などを、グループ行動で協力しながら見てまわりました。短い動画にまとめましたので、ご覧ください。

2年 京都動物園

紙面配布のみ表示



期間限定 11/1～11/30

3年 働く人々 10/23



3年生では、「安全な暮らし」や「和邇のすてきにふれ合おう」の学習をしています。

10月23日に駐在所の警察官に来校いただき、警察の仕事について学びました。私たちは、このような多くの皆様に支えられて暮らしていることを実感することができました。

お花学級 ブロック交流会 10/24

お花学級の志賀ブロック交流会が小松小学校の会場で開催されました。この日に向けて、みんなで協力して劇の準備を進め、楽しく発表することができました。



4年 秋さがし 10/26

理科の学習で、秋の植物や動物の様子を観察するために和邇公園に出かけました。草花や虫などをタブレットで撮影し、春や夏に続き、植物・動物秋図鑑を作成しています。



5年 オーパル自然体験 10/4

5年生は「オーパル」に自然体験学習に出かけました。カヌー体験、ドラゴンボート、よし紙笛づくりをしました。天候に恵まれ、貴重な体験ができました。⇒動画です。



5年 オーパル

紙面配布のみ表示



期間限定 11/1～11/30

6年 「やまなし」の学習



国語科では、「やまなし」の学習をしています。宮沢賢治の人生や生き方と重ねながら読み深めたり、独特の表現から幻灯の様子

を想像したりしました。最後には、作者が「やまなし」で伝えたかったことを「宮沢ケンジグラム」にまとめます。

和邇小歴史写真展 11/14～11/29

創立150周年記念式典は、11月10日に、和邇文化センターにて開催されます。その日に展示された写真展を、和邇平和堂のギャラリー都千本にて、11/14～11/29の期間に展示します。ぜひ、この機会にご覧ください。

和邇小学校歴史写真展の開催

なつかしい写真がいっぱいあるよ！

☆期間 令和5年11月14日(火)～11月29日(水)

☆会場 ギャラリー都千本(平和堂和邇店2階)

主催 和邇小学校創立150周年記念事業実行委員会
事務局 和邇小学校内 大津信和室 Tel. 077-(594)-0012

シリーズ ウェルビーイング 子どものWell-being 第7弾 「読書」



学校のフルゴールドグッピー
本文との関連はありません。

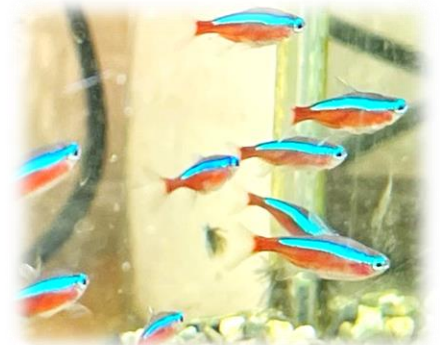
Well-being とは、心身とも満たされた状態を表すもので、「幸福」とも訳されます。現在、あらゆる分野で注目を浴びていて、さまざまな調査や研究がなされています。子どもたちが、自分が幸せだと感じると、学びのパフォーマンスが向上し、学級や学校に良い影響をもたらすことになります。当然、学力も向上し、意欲向上とともに生活が安定します。

では、いったいどうすれば、「子ども自身が幸せだと感じるか」ということになりますが、シリーズ第7弾は、「読書」を取り上げたいと思います。

『なあんだ、昔から「読書」は大事だといわれてきたあれかあ』、と思われるかもしれませんが、今現在、多くの脳科学の研究者が、「読書」の重要性を示唆して

います。なぜ「読書」が重要なのか、その理由が脳科学の分野で解明されています。「読書」をするかしないかで、その後の人生を大きく左右するという、そして生活が豊かになり幸せに生きられるという、その内容は以下のとおりです。

9歳の誕生日から12歳の誕生日までの3年間を「脳のゴールデンエイジ」と言って、夜の脳神経回路の増え方が特別に多い時期となるそうです。知識や知見やセンスがどんどん作られる3年間と言われています。この3年間以外でも、「読書」は大切なのですが、特にこの3年間は極めて重要となります。人は日常、生活していて経験できること（直接体験）には限りがあります。物語にでてくるような経験を実際にできるわけではないので、読書はその経験を担保してくれるわけです。つまり、読書とは疑似体験です。物語の主人公が裏切られたり、踏みにじられたりしながらも、真実を信じて、最後は仲間と一緒に成功を手にする、というストーリーになっています。苦悩して乗り越えていく過程を疑似体験することで、知識やセンスが身についていきます。子どもたちは、いずれ社会に出て、時には悪意に触れ、いじわるに触れ、理不尽に触れていくことになるわけですが、それを「読書」という形で補完しておく、うまく対処することができるようになり、「幸福」と感じるが多くなります。映画を観たり、アニメを視聴したりすることも、脳にとって良いですが、中でも文字情報を自分の想像力で脳の中の動画にしていける「読書」という行為は、脳の神経信号が最も活性化されることになります。文字情報を入れて、それを自分で五感の感覚になぞらえていく作業は、大脳から小脳までのあらゆるところが使われることになり、脳の奥の方まで神経信号を使うこととなります。アニメも良いですが、一番は「読書」です。また、コミック（マンガ本）については、コマとコマの間を脳が繋げることから、マンガを読むこともおすすめです。



学校のカージナルテトラ
本文との関連はありません。

では、「読書」は物語などストーリーのある本でなければならないのか、というそうではなく、図鑑や科学絵本でもまったく問題はなりません。科学的な世界観や自分の生活と違う世界観を手に入れるのも、将来、問題解決の時に役立ちます。物事の不思議には、必ずストーリーが入っているので、やがて、自分が人間関係に悩んだときに、そこで作られたセンスなどが必ず生きてきます。物語に限らず読みたいと思う本を読むことが大切です。さらに、9歳からのゴールデンエイジに「読書」をするには、それまでに「読書」を楽しむ習慣をつけなければいけません。すべては「絵本」から始まっています。「絵本」に出会って本に触れることに慣れることからのスタートです。和邇小学校では、「読書活動」に力点を置くため、毎日の朝読書の時間を設けたり、図書館司書を配置したり、また、図書ボランティアの皆様へ絵本の読み聞かせをしてもらったりしています。「読書貯金」の取組も、本との出会いのきっかけとなっています。公的予算から図書室の新刊図書を増やしたり、創立150周年記念として、歴史図書の寄贈を受けたりしています。

読書環境を子どもに与えるには、何より大人が（親や教師が）楽しそうに読書をしている姿を見せることです。「読書」はとても楽しいということを見せることで、自然と「読書好き」な子どもになるのです。さあ、今からでも決して遅くはありません。「読書の秋」、読書をしてみませんか。